

多文化共生 滋賀の状況

(河研究室)

「私たち」のくらしは、今も昔も「外国人」の存在なしには成り立ちません。「在日外国人」の歴史は、かれこれ100年以上にもなります。滋賀県も例外ではありません。滋賀県では昨年度、多文化共生に関する施策を計画的かつ総合的に展開するため「**滋賀多文化共生推進プラン**」を策定しました。ここで県は「多文化共生」について、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的なちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことと定義しています。

このパネルでは、滋賀県および日本の在住外国人の状況について、主に統計資料を通じて簡単に説明します。

人口クイズ

どのような国籍の人々が、いつごろから、どのぐらい、
滋賀に暮らしているのでしょうか？

❶ **日本に在住する外国人人口は、約何万人で、日本の総人口の約何%でしょうか？**

❶ **日本における外国人登録者数は約 213 万人 (2010 年末現在) で、日本総人口の約 1.67% に相当します。約 60 人に一人に相当します。**

❷ **滋賀県の人口は？**

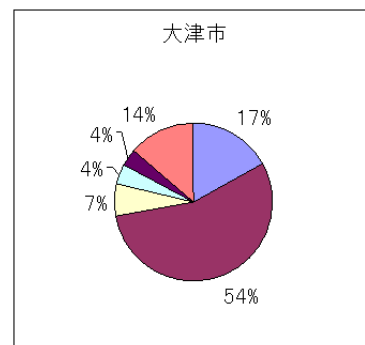
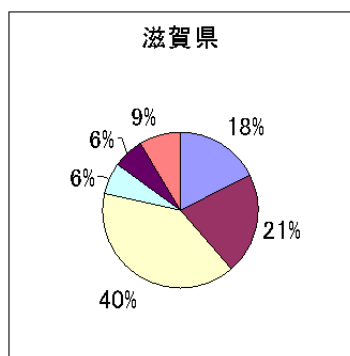
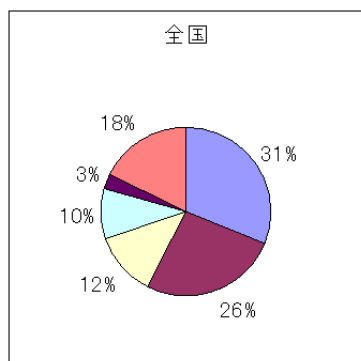
❶ **約 140 万人**です。つまり、日本における外国人登録者の数は、滋賀県の人口よりもはるかに多いんです。ちなみに、約 213 万人という人口は、都道府県人口ランキングで 16 位の長野県の人口と同じぐらいです。

❸ **滋賀県に在住する外国人人口は、約何万人で、滋賀県の総人口の約何%でしょうか？**

❶ **滋賀県における外国人登録者数は約 2 万 6 千人 (2010 年末現在) で、滋賀県総人口の約 1.87% に相当します。約 53 人に一人に相当します。**

❹ **以下の図は、それぞれ、日本全国、滋賀県、大津市における外国人登録者の国籍別割合を円グラフにしたものです。次の国はそれぞれ何色にあたるでしょうか？**

①ブラジル、②ペルー、③フィリピン、④韓国・朝鮮 ⑤中国 ※ピンク色は「その他」



❶ **答えは次のとおり。**

中国

韓国・朝鮮

ブラジル

フィリピン

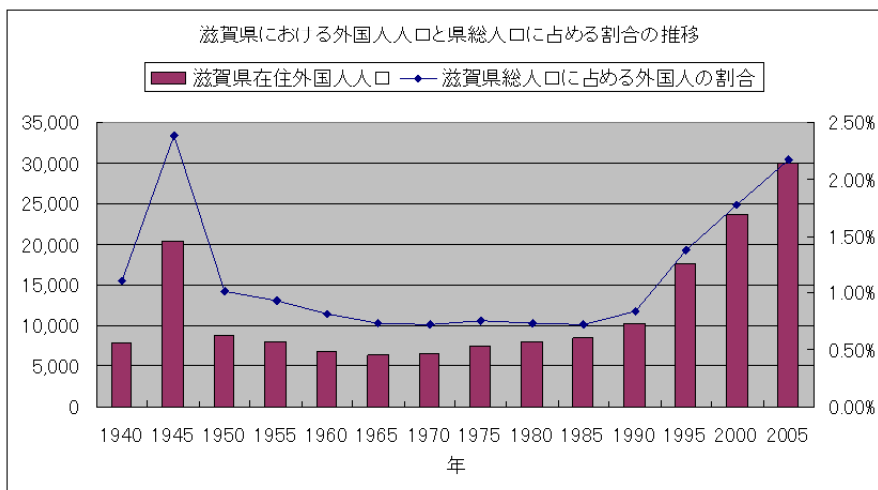
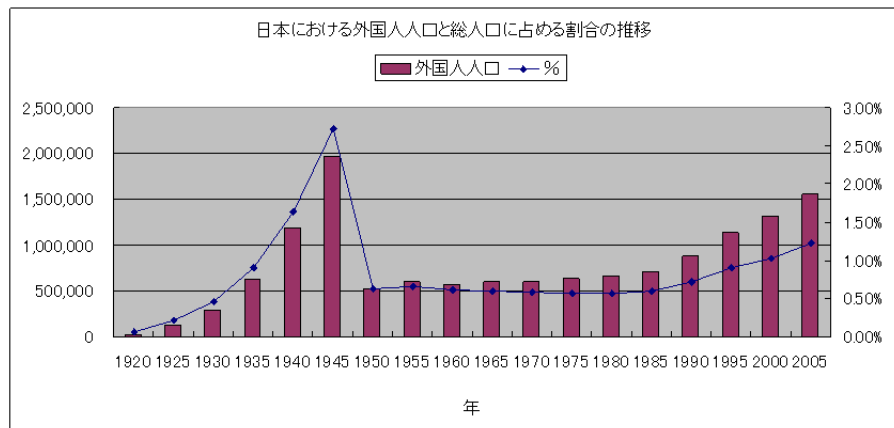
ペルー

全国では、在日外国人の出身国は中国が1位、韓国・朝鮮が2位、ブラジルが3位ですが、滋賀県ではこの上位3位の順番が逆転していて、ブラジルが1位です。一方、大津市の場合は、韓国・朝鮮が圧倒的に1位です。

もう少し長いスパンで見てみましょう

ここまでは現在の話。次に、もう少し過去までさかのぼって見てみましょう。

この二つのグラフは、日本と滋賀県における外国人人口の推移と、総人口に占める割合の推移をあらわしたものです。右側に行くにつれて現在に近づきます。「近年、在日外国人が増えてきている」という実感と数字が一致しますね？



しかしよく見ると、一番ピークを示しているのはいつでしょうか？1945年です。この時点で日本にいる「外国人」は、ほとんど全てが朝鮮人です。日本敗戦の時点で、強制連行など様々な形で日本に来ていた朝鮮人が、200万人以上にのぼっていました。

国境を越えて人が移動する時代の中で

以上のように、近年、日本に在住する外国人の数は増えてきていることはもちろん事実ですが、在日朝鮮人の歴史を踏まえて人口統計から見る限り、日本は既に、「国際化」を経験してきているはずだとも言えます。国境を越えて移動する人びとの活動は、このように比較的長い歴史がありますが、「グローバル化」の時代の中で、今後もとどまることはないでしょう。このような時代に、民族、文化、習慣、言葉、価値観が異なる相手とどうやってよりよい関係を築いて行けるか、そのための知と実践力が求められています。

教員名 河かおる

朝鮮半島の近現代史が専門です。特に、女性史や在日朝鮮人史に関心がありますが、大学での教育においては学生の幅広い関心と自分の好奇心にあわせていろいろな視点から韓国(朝鮮)を見ています。



2009年には、学生と韓国へ実地研修に行き、ソウルの東大門市場のモンゴル人街などをフィールドワークしました。左はその時に撮影したカラオケ店の看板で、「朝昼晩 24 時間あたたかい食事あります」という内容です。同じ内容を、モンゴル語(キリル文字)、モンゴル語(ハングル)、韓国語(ハングル)の三つのパターンで書いてあります。「何それ、面白そう！」と思ったあなた、研究室でお待ちしております\(^o^)/

研究室紹介

